

天保十五年 御用状留

解題

後藤重巳

本号では、前承して、過去に文学部史学科が収集し、現在、附属博物館が保管する「日田郡五馬市村文書」の中の冊子史料「天保十五年 御用状留」を翻刻する。

本史料は、天保十五年正月六日から十二月二十六日までの御用状の留書であり、冒頭の記事は、正月六日の「前々被仰出候御法度之趣並五人組帳ヶ条之趣」約二十ヶ条を列挙し小前一同に申達すべき記事から始まっている。ヶ条中には内容によって「当辰年（天保十五）・・・」と見え、年初に当って同年に該当する事項には、殊更にこれを強調する姿勢が伺われる。

以下の内容は、五馬市村の年貢諸役割賦・廻米などに関わる「触」「達」内容を量的筆頭に、奥五馬筋内の諸村に共通する事項についての留書である。

内容的には、例年恒常の記事となるが、前年（天保十四卯年）の江戸廻米買替納米買付場所替えと積み廻し仕法の手違いから諸雑費の加増に関わる難題（三月五日条）、日田陣屋役人の日向富高引越しに伴うたびたびの人馬負担（三月下旬、八月下旬、十月下旬など）、日田会所詰役の新旧交代に伴う仕上帳など帳簿上の引継問題（五月十七日日付）、日向富高陣屋からの日田までの「御銀附馬」継ぎ立て（十一月十一日日付）

などのほか、秋以降の記事には五馬市村の辰年の年貢諸役負担の具体的な数字が登場して興味を引く。

本史料も、後半部分には文化期の宗門関係帳簿の裏紙を利用している。五馬市村文書に包撰される「宗門改帳」の欠落する年代に相当する部分と思われる。今後機会を改めて紙背の内容を検討する予定である。

校訂に際し、虫食いなどにより難解もしくは不鮮明な文字・用語については「」を、また判読したものについては（カ）と付した。

(表紙)

天保十五年

五番

御用状留

辰二月

日田郡

五馬市村

(タテ 二四・五cm、ヨコ 一八・五cm)

天保十五年 御用状留

○ 前々被仰出候御法度之趣並五人組帳ヶ条之趣弥／相守候儀は勿論、婚礼之節水懸ヶ類其外喧嘩口論／等不致、忠孝を相励農業家業を出精致、万事費ヲ／省き儉約第一ニ心掛ヶ候様可申教候、

但 田畑作付手入入念耕作手後ニ不相成様為致、且椿櫛茶／苗木植付杉差立候是亦小前々急度可申付候、

一、当辰年定免年季切替有之、村々格別増米致並小物成／其外年々不定米銀之分、当辰年稼増減有無共／取調、いつれも二月廿日迄ニ無間違書付可差出候、

但 築網渡世之類は、五月廿日迄ニ書付可差出候、

一、前々荒地並近年荒地之分共精々可起返は勿論、／之儀後当辰年十三ヶ年目ニ相成候分本免入並／免上等取調、五月十四（日）迄書付無間違可差出候、

但 畑田成等有之分は取調、是亦五月中書付可差出候、

一、見取場小物成之内、作高入可相成場所並野畑／刈畑等より見取ニ可相成分其外新規切開切添等之地所／有之候ハハ、無油断吟味いたし可申出候、

一、御林往還並木道添其外地統之場所、連々田畑え切込候故、往来道巾狭く相成、人牛馬共「通路差支候場所有之哉ニ相聞、甚如何野事ニ候」、右躰之場所は／古来之道敷取調、切狭候丈ヶ其地主え申付／道敷元形之通附土いたし、往来不差支様可致候、

一、御林近辺野火有之節は、村役人山守其外／早速駆着消留可申候、御林之儀は前々より被仰渡も有之、大切之儀ニ付、聊等閑ニ致間敷候、

一、当辰年宗門絵踏二月中旬より出役廻村、右改／候条宗門人別帳五人

組帳共前々仕来之通、家内人／数男女「改」ヶ牛馬数等に入念相改並小前々人別持／高等迄不洩様相記印形取揃、当月晦日限り可差出候／且絵踏之節他出病氣等ニテ罷出兼候もの並留守居之／名前書は出役先え差出改を可請候、

但 年々引統他出断等いたし候も有之哉ニ相聞、甚／如何之事ニ候、以来は宗門改候以前呼返置可申候、老年および候ものニハ宗門人別帳相除候族モ間々有之／不孝之筋ニテ甚如何之事ニ付、先前支配ニおいて伺之上／申渡置通、八十歳以上之老人有之下女下男等も無之もの／は家別割合ニ相勤候公役之入夫を相除孝道を為／相弁都テ老人ヲ大切ニいたし候様（可）教候、

但 八十歳以上之ものは勿論、当年八十歳ニ相成候もの／取調増減書付、宗門帳ニ相添可差出候、

一、百姓共之内、相統人無之ものを他所え遣し候テハ百姓／株相減候ニ付、右様之ものは他所え差遣間敷候、猥ニ／村送寺送等差出間鋪候、

但 百姓株相統可致もの年若ニテ独身ニ候ハハ、相応之／嫁婿ヲ取遣シ及老年子無之ものえは、養子ヲ／世話いたし遣シ、都テ百姓家名不絶様世話可致候、

一、孝行奇特之ものは勿論、農業格別出精もの有之／候ハハ、其段取調可申候、

一、博打は不及（申）賭之勝負堅相慎可申候、且村役人／共村内繁々見回り小前等末々迄右躰之儀無之様厳／重ニ取締可致候、

一、御免無之者帯刀致間敷候、若心得違ニテ帯刀いたし／候か又は長脇差を帯、百姓ニ不似合風体之者見当候ハハ早々可訴出候、

一、堤川除用水路御普請自普請所共破損致候ハハ、可成／丈小破之内ニ取締不及大破様可致候、

一、高札之儀年数相立文字相分兼候分は、墨入之儀可願出候、

一、鶴取候儀は決て致間敷候、

一、貯穀之儀は年々作徳之内を以出穀いたし、困置候得ハ凶作其外ニテ夫食差支、可及飢渴程之時節割渡し可為請との事ニテ、全百姓を御勞り御憐愍之厚き御趣意ニ有之候故、百姓ども無懈怠出穀いたし候様申論候得共、兎角余慶之品を相納候事之様ニ存候族も有之哉ニ相聞甚以心得違之事ニ候、既ニ去申ノ年之如き凶作ニ夫食ニ差支候之節は、銘々え割ノ渡ニ相成飢渴をも相凌候事は歴然之儀ニ有之ノ間、以来年々作徳ノ糶雜穀之内を以格別出穀いたし凶年手当ニ困置候様可致候、

但 小前之内ニテ凶災と申は稀成事ニテ、見越之ノ覚悟いたし、少も緩ニいたし候方可宜等と心得ノ違之ものも可有之哉ニ候得ハ、何時何様之儀可有之ノ哉も難計、其場ニ臨ミ如何様候共無詮事ノニテ、平日心掛之厚薄ニ寄非常之節安危ニ拘候事ニ付、此儀能々村役人より可申論候、

一、村入用之儀は、村役人之世話方厚薄ニ寄軽重も有之儀ニ付、都テ美を省き小前之もの疑惑不致様ノ実意世話可致候、右村入用帳は仕来之通、三月週日限可差出候、

一、当辰年菜種取入高手作手絞且銘々自分遣之ノ分は、其旨相認、大坂堺兵庫等へ積廻候有無共、例年通ノ明細取調、宗門帳差出候節一同可差出、万一心得違を以延引ノ候得は其ニ重ニ入用も相懸候条其旨厚心得無違失可差出候、

一、村々御根付届之儀、是迄一村限ニ届出候分も有之、右ニテはノ村方雜費も相掛候条、皆根付相濟候、以来一郡限又はノ組合村ニテ惣代を以早々可届出、右は成丈々村入用相減シノ候趣意ニ候条、其旨厚

相心得無間違可取計事、右之趣、役人共得其意、小前未々迄不洩様可申「達」候、此廻状村下ニ令請印、早々順達、留村より可相返もの也、

辰正月六

苗代部始五馬市留

日田役所

二月十日新城より受取

出口村繼立

○ 一、丁錢 拾九貫八百六拾八匁

五馬市村

右は当辰郡中入用前割、書面之通割賦ノ相觸候条、来ル三月十四日十五日之内、丸屋幸右衛門ノ預リ書付ヲ以可相納候、此廻状村下え庄屋令請印、早々順達、留村より可相返もの也、

辰二月

二月廿一日新城より受取

日田御役所

印

桜竹始芋作ニ留リ

○ 申談候御用向有之候間、来ル四日正五ツ時、無名代ノ御自身御出勤可相成候、早々、以上、

三月二日

会所 印

五馬市 信作殿

○ 山本院継目奉加之儀、先日申進候、「廻」状之ノ儀ニ付御筋内村々御取集、来ル十日頃迄御納ノ可相成候段申進候、以上、

三月四日

会所 印

庄手作太郎殿「承知仕候」、小迫宗左衛門殿・藤山「」作殿ノ鶴河

内治左衛門殿・小畑寛兵衛殿「承知仕候」、栗林忠左衛門「承知仕候」、苗代部祐右衛門殿・五馬市信作殿

三月五日 会所より受取「写」諸状相渡ス

○ 去卯年江戸御廻米買替納米、買付方場所替／其上ニ、田ノ浦積、大坂御廻船方御差支之旨被／仰渡、小倉米筑前黒崎湊え積廻シ、彼是ノ諸雜費相懸リ引負人難滞之趣、別紙之通ノ歎書差出候ニ付、此節筋代衆立会得トノ御相談被成下、御積立方差支ニ不相成様ノ御筋内村々御談合之上、来十日迄再会被成ノ候様可申談候事、

三月五日

会所

筋代衆中

○ 以書付御願申上候

一、金四拾毫両

是は、御口米代銀並江戸御廻米代銀ニテ、正米買替仕候処

正米直段高値ニ相当リ候ニ付、此分不足ニ

相成候分御郡方より助合可成下候、

一、銀三貫目

是は、御米豊前田ノ浦湊より黒崎え積廻船賃、蔵敷余時入用相懸リ候分、

内 五貫目

陽助より払入置候分、

一、貳貫五百目 不足御郡方より御助合奉願上候、

右は、去卯江戸御廻米之儀、豊前国田ノ浦湊ニテノ御積立可仕候様被仰

付候ニ付、同所湊え御米ノ積廻シ御蔵預ケ仕置候処、大坂御廻船方より

黒崎ノ湊え御振替ニ相成候由被仰渡、田ノ浦湊より黒崎ノ湊え積廻シ、船賃蔵敷余時入用相掛候ニ付、右之ノ銀辻黒崎湊え借立置候間、御積立

之節ニノ黒崎湊え持參致し同所船頭え支払勘定ノ不仕候テハ御積立御差支ニ相成、重々奉恐入候ノ儀ニ付、何卒御会所より郡方筋代衆え御談じ被下ノ右之金子御助合被下、御積立之節御持參被下ノ候様御願申上候、猶又御口米直段之儀、当所御直段よりノ他国ニテ正米買付直段高直ニ相

辰三月

祝原村庄屋

日田御役所

願人 陽助

○ 其御村々西丸御普請ニ付、去亥年より上ヶ金いたし候ノもの共、其

後代替又は名前替等いたし候ものノ有之候ハハ、吾人別取調、三月十日迄書面を以ノ可申立候、此廻状村下庄屋令請印早々ノ順達、留村より可相返もの也、

辰二月廿六日

日田御役所 印

苗代部始五馬市留

三月八日新城より請取

○ 筋代御用相勤候処、御直被仰渡候御用御座候間、明後九日ノ桜竹俊吾殿宅え、無御名代御自身御出席可被成候、此状早々御順達可被成候、以上、

三月七日

本城 良平 印

桜竹 俊吾殿

新城彦右衛門殿

芋作 連平殿

五馬市 信作殿

出口 弥治殿

塚田 俊吾殿

追テ、桜竹氏え申上候、明後九日出会御宅え相触申候間、御用意可被下候、以上、

別紙之通、御出会申来候得共、九日と申テハ、無扨差支御座候ニ付、十日ニ当方え御出会、被下候様奉願上候、尤本城方へは此段断遣候間、左様御承知可被成候、右御断申上度如此御座候、以上、

三月七日

桜竹 俊吾

各様

○ 去卯江戸御廻米之儀ニ付、当月四日御惣代、御出会之上、昨日再会之儀申談在之候処、今以御出会無之候間、明十二日朝五ツ時、無間違御出勤ノ可被成候、以上、

三月十一日

会所 印

五馬市 信作殿

十二日統木村より受取

別紙ヲ以本城え申達候

○ 申渡

諸国村々百姓共え拝借被仰付候夫食種代農具ノ代之儀は水災其外不作之節、為御救拝借被仰付候儀ニ有之候処、近年不作之年柄相統候故、拝借高相高、返納難儀之趣相聞候間、夫食種代農具代、拝借米金銀返納錢残之分、不残去ル子年迄々年延、丑年より式拾五ヶ年賦返納被仰付候旨、去子年被仰出候処、猶又此度格別詔を以、右之分当辰年より返納之分半高被下切錢半高是迄之年賦を以返納被仰付候、

右之通被仰出候間、耕作等格別相励可申候、以来拝借は容易ニ被仰付間

敷候間、若水災不作等之年柄有之候共、兼て出穀致し置、其節ニ至り不及難儀様可致候、且民は国之本たる儀を忘、質朴之風儀を取失ひだじゃくニ流れ、産業等ニモ離れ候様ニ成行「訳」之身之事ニ付、向後は享保寛政度之通、格段ニ相改、百姓本儀を不忘れ御国恩之冥加を相弁へ、万端心得違無之様いたし、此度格段御救助被仰出候上は、際立石風俗相改候様、村役人共厚世話可致候、

右之通被仰渡一同難有承知奉畏候、早速村々申通、小前老人別、為申間候様可仕候、依テ御受印形差上申候、以上、

天保十五年二月

松浦

三月十日 桜竹出会

下毛

直入 郡惣代

玖珠

日田

○ 口上

融通講初会籤銀、隈豆田両町え預ケニ可相成分ノ之内、銀拾貫目、下拙名前ニテ小倉え貸出有之候分、去八月迄は月壹分式厘五毛之申極ニ御座候処、小倉よりノ利下之請合も有之追々被仰渡も御座候ニ付、月壹分以上ニテハ取引難仕候間、去九月より利息はノ月壹分ニテ小倉え月「銀」差遣可申候、左候得は融通講ノ掛銀此節分不足ニ可相成、各様御名前之儀ニ付ノ御会所え御談被下、融通講掛銀差支ニノ不成様御取計被下度、為入念申上置候様御用達ノ中より頼来候間、外預銀利息儀も一同会所えノ御談之上、講会掛銀無差支様御取計被下度、此段口書を以申上置候、以上、

二月廿二日

日隈彦助

京屋 判四郎 様

丸屋 幸右衛門様

右之趣被仰聞承知致候得共、當時郡方之振合ノニテは時々割賦取立方行届兼、且講座之錢差支ニ相成候テハ御引受方御迷惑之儀ニ相成候テハ氣節は如何様共申談、右備銀ノ全相差立置候様仕度存候、依之私共印形致置候、以上、

辰二月廿五日

三月十日桜竹出会

直入
玖珠 郡惣代
日田

○ 去卯三納御銀納残り、三月十四十五日両日之内ノ皆納可仕様御会所より申来候得共、当村不足無之ニ付ノ写置不申候、諸状新城より申来、即刻出口え繼立申候、

○ 大社御祈禱札、寅卯式ヶ年分相廻候間、御村々御受納被成、御廻シ可被成候、以上、

辰二月

会所 印

桜竹始五馬市留リ

○ 宗門御改絵踏之儀、其御村々御廻村之儀、天氣次第来ル十五日六ツ頃より御廻村被遊候間、貯穀ノ其外諸事御差障無之様御取計可被成候ノ尤御休泊之儀は、追々御先触御仕出之上ノ相分リ可申候左様御承知可被成候、此状刻付を以即刻御廻シ可被成候、以上、

辰三月十三日未之上刻出

会所 印

高取始 五馬市始 赤岩始 苗代部留リ

三月十五日鎌手より受取 新城え繼立申候、

其御村々当卯宗門御改帳、今以御差出ノ不被成、近々之内御改御廻村被遊候間、御差支ノ之段嚴敷被仰渡候、此状着次第御差出可ノ被成候、必無御延引様御取計可成候、以上、

辰三月十三日未上刻出ス

会所 印

鎌手 小五馬 栗林 続木 芋作 桜竹
湯 山留

○ 覚

一、人足 四人

貳人 駕籠一丁

参人 両掛一丁

老入 絵板持

右は、我等儀当辰宗門踏絵並貯穀改就ノ御用明十六日明六ツ半時、日田陣屋出立廻村ノいたし候条、諸事例年之通相心得、且八拾歳以上之老人は罷出候共留守居致し候共勝手次第、若大病ニテ難手放ものは看病ノ之もの相残其段相断、病人帳可差出、其外ノ下通病氣之ものは押テモ罷出、他出之ものは成丈ヶ呼戻、無廻分は老人別取調、他出帳ノ三役人並び五人組印形之上差出候、尤年々引続ノ他出等之分断難相立候間、急度呼戻シ可申候、ノ且人足繼添船川越場止宿等無差支様ノ取計、此先触早々繼立、留村より日田御役所え可相返候、以上、

辰三月十四日

竹尾清左衛門手代

原 健平 印

三月十六日高取村 同御屋 万々金村 同御泊

鎌手村 同日 小五馬村

同十七日栗林村 同御屋 続木村 同日 五馬市村

十七日 同御泊 新城村 同日 芋作村

同十八日昼 出口村 同日 塚田村 同御泊 本城村

同十九日 桜竹村 同日 赤岩村 同日 湯山村

同御泊り 柚野木村 同日 大鳥村

同廿日 女子畑村 同日 苗代部村

村々庄屋

組頭 中

百姓代

追て休泊にては御定之米銭は所相場を以て相払候条、上下三人分
賄用意可有之候、以上、

原様御儀、其村始め宗門御改被遊御越二付、迎人足並組頭壹人相添、当
御役所明後十五日曉七つ時御差出可被成候、右刻限無延引様御取計御差
出可被成候、以上、

三月十四日

会所 印

高取武左衛門 殿

○ 申談候急御用有之候間、明後十八日御出勤ノ可被成候
若御差支等有之候ハハ、御同役之内御出勤可被成候、組頭衆ニテは相濟
不申候、左様御承知右日限無延引御出勤可被成候、以上、

三月十六日

会所 印

五馬市信作 殿

○ 新井手御他之外廻出夫之儀、先達て会所よりノ御割出ニ相成候処、
掘割石運等其御村々出夫無之ニ付ノ雇立ニ致置普請所石組仕舞ニ相成候
間、追々ノ会所より賃銭之儀被申遣候間、其節無遅滞様ノ右賃銭御差出
可被下候、態と壹人御達申上げ置候、以上、

三月廿一日

大原普請所 印

五馬市村 御役頭

○ 覚

一、人足 拾五人

内

式人 駕籠 壹挺

式人 乘駕籠 壹挺

式人 宿駕籠 壹挺

手当可有之候

壹人 両掛 壹荷

八人 棹荷 四箇

一、馬 三匹

右は我等儀、就御用明後廿七日ノ豊後国日田陣屋出立、日向国富高ノ陣
屋え罷越候条、宿村々ニおいてノ書面之人馬御定之賃銭受取之ノ無遅滞
差出繼立之、且渡船ノ川越馬止宿等之儀も無差支ノ様被取計、此先触早々
繼立留村より富高陣屋え可被相届候、以上、

西国筋郡代

竹尾清右衛門手代

原 健平

辰三月廿五日

豊後国日田より
日向国富高迄
右宿村役人中

三月廿七日	上井出	同日	五馬市村
同 廿八日	出口村	同日	宮野原
同 廿九日	久住	同日	竹田
四月一日	宇田枝	同日	小野市
同 二日	重岡	同日	八戸
四月三日	永井	同日	延岡
同 四日	門川		富高

一、追テ休泊ニテは御定之木錢米代は所相場を以相払候条、上下五人分賄用意可有之候、以上、

一、人足	五人	塚田村
一、同	六人	本城村
一、同	四人	桜竹村
一、同	三人	新城村
一、同	拾人	芋作村
一、同	八人	五馬市村
一、馬	四匹	五馬市村

一、同 三匹 出口村
右は、原健平様日向富高御陣屋御引越ノニ付、入用人馬書面之通、明後廿八日朝正七ツ時ノ五馬市村ニ相揃イ居候様御差出可被成候、尤ノ五馬市村御止宿ニ有之候間、可成は前晚より御差出ノ御出立相待候様有之度、此段御勘弁御差出ノ可被成候、以上、

三月廿六日
五馬市信作
出口弥惣治
新城彦右衛門殿
芋作 蓮平殿
桜竹 俊吾殿
本城 良平殿
塚田俊左衛門殿

追テ申上候、兼テ御承知も有之、原旦那富高御陣屋御勤役ニ相成、御家内御引越ノ明廿七日之晚、拙宅御止宿、出口村御昼休ニ相成ノ候間、此段御しらせ申上候、以上、

一、人足	四人	塚田村
一、同	四人	本城村
一、同	三人	桜竹村
一、同	三人	新城村
一、同	三人	芋作村

右は、原健平様日向富高御陣屋御引越ノニ付、入用人足追割、書面之通

右村々え割出申触候、以上、

三月廿七日

五馬市信作
出口弥惣治

○ 放牛馬之儀、当月十三日限、御村々ニ御引寄ノ可被成候、右申上度
如斯御座候、此状早々御順達可被成候、以上、

四月十日

本城村 印

桜竹村 赤岩村 新城村
五馬市村・塚田村 留リ

右御村々 御役頭衆中 十一日 新城より継来、

○ 覚

一、人足 拾人

此賃錢 七拾目

桜竹村

一、同 貳拾人

此賃錢 百四拾目

本城村

一、同 拾人

此賃錢 七拾目

新城村

一、同 拾八人

此賃錢 百貳拾六匁

塚田村

一、同 三十人

此賃錢 貳百拾匁

出口村

一、同 三拾七人

此賃錢 貳百五拾九匁 五馬市村

四月十九日納受取有之

一、同 四人

此賃錢 貳拾八匁 芋作村

人足 百貳拾九人

此賃錢 九百三匁

右は、大橋取繕入用人足其御村々ノ遠方之儀、正人足差出方御迷惑ニノ可有之候間、書面之通百石五人当、賃ノ錢別紙相触候間、来ル十五日迄無間ノ違御納可被成候、賃錢納方御延引ニノおいては下飛脚差立候間、右日限無ノ間違相納可被成候、此状早々御廻シ可被成候、以上、

辰四月廿日

会所

右村々 御役頭中

○ 一、人足 六拾人

此賃錢 四百貳拾目 五馬市村

右は、大原神地取繕入用人足賃相納候、

辰四月十八日 御会所納 納人 佐七

受取有之

覚

一、銀 三拾五匁壹分三厘 五馬市村

右は、花月川通陣屋廻村之内、大橋取繕普ノ諸諸入用銀書面之通、割賦相触候条、来六月九日十日両日之間、丸屋幸右衛門預リ書を以可相納候、

此廻状村名下庄屋令請印、早々留り村より可相返もの也、

辰五月十九日

日田御役所

村々庄屋与頭

五月廿二日出口より

受取新城え繼立

廿四日、出口村より受取

○ 田口様御儀、六月一日明ヶ七つ時御陣屋御出立／玖珠郡山浦村始メ

繪踏御改として村々御廻村／被遊候間、其村々御通行ニ付、御案内可被

成候／聊無間違御取計可被成候、此状御先触一同無／遲滞御繼立可被成

候、早々、以上、

五月廿七日

会所 印

陣屋廻始 山浦留り

栗林 五馬市 新城 本城 山浦

六月一日栗林村より受取新城村え繼立申候

○ 筋代御用相勤候処、申談御用有之候間／明後廿三日朝五ツ時、出口

弥惣治殿宅え無／御名代御自身御出席可被成候、以上、

辰五月廿一日

桜竹 俊吾

本城 良平殿

塚田俊左衛門殿

出口 弥惣治殿

芋作 蓮平殿

新城彦右衛門殿

五馬市 信作殿

追テ、出口氏え申上候、明後廿三日、貴宅え出會申触候間左様思召可被

成候、以上、

○ 一、丁錢 三貫九百八拾六文

五馬市村

右は、大原山神宮寺繼目官職諸入用金、先／例之振合ヲ以願出候ニ付、

取調候処、相違無之趣／右ニ付、先達て中筋惣代申談、書物之通割賦／

相触候間、六月十日迄、筋限惣代衆取集／御納可被成候、此廻状村名下

被成御受印、早々御順達、留村より御返可被成候、以上、

辰五月廿日

会所 印

村々御役頭中

○ 急御用申談候儀御座候間、此状着次第／無御名代御自身御出勤可被

成候、必御延引／被成間敷候、早々、以上、

六月七日

会所 印

五馬市信作 殿

○ 去卯十二月より当辰五月迄、御用状持賃御用人馬賃共来ル十日迄御

書出可被成候、右日限御延引ニおいては賃／錢方差支候間、左様御承知

被成、無御延引御書出／可被成候此状早々御廻シ可被成候、以上、

六月一日

会所 印

六月上井手より受取

中城 上井手 五馬市 出口 右御村々御役頭中

○ 弥御健勝被成御勤珍重ニ奉存候、先日より御出勤被下候由、暑中御

苦勞ニ奉存候、然ル処会所御用／別紙之通申来候得共、下拙相病何分出

難難／仕候間、貴公様御勤可被下候、尚又夫食請書／昨日為持差出候処、

二

筋内一同相納候様被仰渡／候由、宿重吉方へ預ヶ置候由幸貴公様御／出

勤之儀ニ付、筋内一同御納可被下候、右御頼／申上度如斯御座候、以上、

六月十一日

桜竹 俊吾

五馬市信作 様

○ 以書付申上候

先会所用松瀬兵衛殿南高瀬彦左衛門殿右／御兩人より郡中入用錢御引受より仕上帳を以勘定致度、

但 会所より下ゲ札有之候訳

此廉先役中之儀ニ付、御答難申上御座候、

一、先会所詰仕上帳早々御仕出ニ相成候様御取計可被下候、

但 右同断

此廉先役中之儀ニ付、御答難申上御座候、

一、去々寅年間際金御下渡ニ相成候様御願取可被下候、

但 右同断

此承知仕候、夫々相分候様可申上候、

一、博多屋え預り金年賦返納金有之由、右年賦／何年より昨卯年迄何入用ニ相成候哉、仕上帳郡方惣代共／拜見致度候間、此段御取計可被下候、

但 右同断

此廉当役ニテハ相分兼候得共、筋々ニ取調相分候様致度存候、

一、新開入用銀、丸屋預ヶ錢通、郡方え御渡被下度／尤去春調方小前共

より申出候間、惣代より先会所詰／え申出候処、小迫村久一郎、下

井手村佐助、田嶋村／喜平右三人ヲ以、秋迄納方相待候様、御相談

ニ／相成候処、其俣ニテ延々ニ相成候間、此段御取計可被下候、

但 右同断

此廉先役之儀ニ付、御答難申上御座候、

一、子年間際金、御掛屋預り中利金差出方／御願申上置候処、其俣ニ相成居候間、此段早々御取計可被下候、

但 右同断

此廉掛屋中え郡方より被申出候趣、一ト先ツ申談、其上中村／善右衛門殿迄熟談取拵御願申上候俣ニ相成居間、其内得と申談度候事、

一、筏運上之内、川浚え入用清勘定御仕出帳為御見被下／候様御願申上候、

但 右同断

此廉いまた相調不申、木屋有之其内夫々取勘定可致候事、

右之廉々御取調被成下、分明ニ相片付候様／御取計被下度御願申上候、然ル上は右之口々取極之／趣ヲ以、昨日御沙汰ニ相成候会所借財之儀、夫々／相片付方仕度奉存候、此段宜敷御頼申上候、

辰五月十七日

郡方

御会所

○ 覚

一、金 九両也

此代 三貫弍百四拾目 去冬筋代より御預ヶ置候

但 一ヶ村ニ付

十九 四拾一匁宛

一、拾三ヶ村 五百三拾三匁 城内筋

一、拾ヶ村 四百拾匁 渡里筋

一、拾ヶ村 四百拾匁 小野筋

一、六ヶ村 式百四拾六匁 大肥筋
 一、拾三ヶ村 五百三拾三匁 高瀬筋
 一、八ヶ村 三百式拾八匁 津江筋
 一、六ヶ村 式百四拾六匁 大山筋
 一、六ヶ村 式百四拾六匁 口五馬筋
 一、七ヶ村 式百八拾七匁 奥五馬筋
 但 此内百六拾五匁 六月十四日受取
 内百式匁九分、宿入用油の木ニ相渡
 七拾九ヶ村
 合 三貫式百三拾九匁

○ 今廿五日、筋代御用相勤候処、夫食年賦返納／御請書別紙帳面御役所御案文写取、相廻／申候間、来六月十日迄ニ村限相認御納可被成候、尤紙寸方／上書ニ有之候通、御村々共相揃候様、御取計可被成候、尚又／不分明之儀も御座候ハハ、殿「取」方ニテも出会御触被「下」ハハ罷出／御演舌可申上候、此状別紙一同早々可被成候、以上、

六月廿七日 桜竹 俊吾
 本城始 塚田 出口 芋作 新城 五馬市留り 六月十一日新城より
 受取申候、

差上申御請証文之事

天保八酉年拝借

米何程

内 米 何程 戊壱ヶ年延亥返納濟候分

米 何程

是は天保十一年子壱ヶ年延丑より丑迄式拾五ヶ

年賦之内、丑寅卯三ヶ年返納濟候分、

米 何程 辰より返納可致分

半方被下切

内 米何程

飢夫食拝借返納米

一、米 何程
 末^{すえ}年無之村方

但 天保十五辰年より丑迄式拾五ヶ年賦、壹ヶ年米何程ツツ返納

之積

末^{すえ}年納方違イ村方

但 天保十五辰年より丑迄式拾五ヶ年賦、壹ヶ年米何程ツツ末

年は米何程返納之積

右は諸国村々百姓共え拝借被仰付夫食種粉代農具代等之儀は、水損其外不作之節為御救拝借被仰付候儀ニ有之候処近年不作之年柄相統候故、拝借高相嵩返納難儀之趣相聞候間／夫食種粉代農具代拝借米金銀返納錢之分不残去ル子年壱ヶ年延／丑年より式拾五ヶ年賦被仰付候間、去ル子年被仰出候処尚又／此度各別之訳を以右之分当辰年より返納之分、半高被「下」一、残半高／是迄之年賦を以返納被仰付候間、耕作等出精いたし、以来拝借は／容易ニ被仰付間敷候間、若水災不作等之年柄有之候共、兼て出穀等／致置、其節ニ至り不及難儀様可致、且民は国之本たる儀を忘れ、質朴之／風儀取失ひだじゃくニ相成、家業等ニも離れ候様ニ成行、以之外之事ニ付／向後は享保寛政度之通格段ニ相改、百姓之本義を不忘れ 国恩之冥加を相弁、万端心得違無之様いたし、此度格段御救助被／

仰出候上は、際立、右風俗相改候様可致旨被仰渡候、

右之通、寛大之御仁慈を以御救之儀被仰出候上は、無心得違銘々被仰渡之趣堅相守、書面割合之通年賦聊無遲滞返納致し可申旨被仰渡一同難有承知奉畏候、依之連印御請証文差上げ申処如件、

天保十五辰年六月

何国何郡

何村三役人 印

竹尾清右衛門様

御役所

○ 申談候急御用有之候間、明後十九日正五ツ時、無名代御自身印判御持參御出勤可被成候、必無間違御出勤可被成候、以上、

六月十七日

会所 印

十九日九ツ時女子畑村ニ着いたし候 同刻継立申候、如此付札有之

十九日七ツ半時着仕候

五馬市信作殿

○ 米 貳拾六石壹斗

天保八酉拜借高

内

米 五石貳斗貳升 戌壹ヶ年延亥返納済候分

米 貳石五斗五合六勺

是は天保十一子壹ヶ年延丑より丑迄貳拾五ヶ年賦之内 丑

寅卯三ヶ年納済候分

米 拾八石三斗七升四合四勺 辰より返納可致分

内 米九石壹斗八升七合貳勺 半高被下切

一、米 九石壹斗八升七合貳勺

日田郡 五馬市村

但 天保十五辰より丑迄貳拾五ヶ年賦壹ヶ年米四斗壹升七合六勺ツツ返納之積

○ 祇園參詣ニ付、日傘等決て差不申候様小前ノ末々迄急度御申聞御取締可被成候、其外共都テ儉ノ約筋堅相守候様可取計旨、精々被仰渡候間、御村々共ノ小前不洩落様御申聞可被成候、此状早々御廻シ可被成候、以上、

六月十日

会所 印

苗代部始五馬市留リ 尤六月十八日新城より受取、

○ 郡方之儀申談候、筋代用談有之候間、明廿一日ノ無御名代御出勤可被成御揃ひ無之候では、決「定」出来ノ兼候間、此節之儀は捨置かたく誤合ニ有之候ニ付ノ必御延引被成間敷候、以上、

六月廿日

会所 印

同廿一日 四ツ時、続木村より受取

五馬市信作殿

○ 小林様頼母志

一、金子 貳步掛

五馬市村

小林様より御頼之一条、別紙之通御帳面差迫候間ノ筋内村々何卒御加入被成下候様御取計可被下候、此段ノ御頼申上候、

六月八日

会所 印

出口弥惣治殿

桜竹 俊吾殿

別紙之通、会所より

小林様頼母志之儀、申来候間、御村々共御帳面ニ御記御加入ノ可被成候、外筋々も一統之儀と申事ニ御座候間、此段ノ下拙共よりおしらせ申上候、尤松浦様も右様御頼有之段、粗及承候得共、何れ此節ノ筋代御勤被下候御村より、御演舌も可有之左候得はノ一村より一両宛ニ可相当哉何其御思召ヲ以御加入可被成候、以上、

六月十九日

桜竹 俊吾

出口弥惣治

塚田俊左衛門様

本城 良平様

新城彦右衛門様

芋作 連平様

五馬市 信作様

右金子式步 六月廿四日 桜竹俊吾殿方へ差遣筈、廿日申極之事、

○ 一、丁銭 拾九貫八百六拾八文 五馬市村

右は当辰郡中入用前割書面之通、割賦相触候間ノ来ル七月十四日十五日両日之内、丸屋幸右衛門預リ書ヲ以御納ノ可被成候、此廻状村下え御請印早々御順達留リ村より御返し可被成候、以上、

辰六月十八日

会所 印

但 六月廿八日出口より受取

七月十八日出し「 状桜竹始芋作留

八月一日出口より受取新城へ継立申候、

○ 筋代御用相勤候ニ付、明後十六日五馬市信作殿宅より出会可致間、各御自身御出席可被成候、以上、

七月十四日

新城彦右衛門

五馬市 信作殿

出口 弥惣治殿

塚田俊左衛門殿

本城 良平殿

桜竹 俊吾殿

追て五馬市氏より申上候、貴宅より出会申触候間、左様御手当可被成候、以上、

○ 飛札を以啓上仕候、各様弥御健勝被成御座珍重ノ奉存候、然ば先日より追々御願申進候松浦様御頼之一条ノ是非共急埒いたし候様各様御取計可被下候、最早ノ外筋村々記帳相濟候儀ニ付、取極り候様御筋内村々へノ御談じ被成候様呉々御頼申上候、此段継立老人を以ノ御頼申進候、以上、

七月四日

渡里 源平

出口弥惣治 様

五馬一信作 様

桜竹 俊吾 様

○ 阿蘭陀本国より仕出之船壹艘、当月二日ノ長崎表入津、高鋒嶋辺え滞船いたし、全通ノ商之船には無之候得共、凡事柄相分疑敷筋もノ無之

段、長崎奉行衆より達有之候間、安心いたし、猥ニ浮説不致、且商人ともは右ニ事寄諸色直段ノ無謂引上候儀等無之様両町は勿論、村々えも早々ノ可申通候、

辰七月

右之通今八日被仰せ渡候間、村々共小前心得違ノ不致候様無洩落御取締之上、村名下え請印被成ノ此状早々御順達、留り村よりお返し可被成候、以上、

辰七月八日

会所 印

桜竹始本城 新城 塚田 出口 五馬市 芋作留

七月時十六日 出口より受取

○ 用紙帳面 広形紙

上書 獵師鉄砲證文

何国何郡

何村

差上申獵師鉄砲證文之事

拜借

一、獵師鉄砲何挺

玉目何匁

何国何郡何村

持主

誰

此運上銀

何匁

持来

同

一、同

玉目何匁

同

誰

此運上銀

何匁

拜借

同

一、同

玉目何匁

同

誰

此運上銀 何匁

何挺

此運上銀 何匁

右獵師鉄砲之儀、従先規所持仕来候処、実正ニ御座候、然ル上ハ、都テ獵業ニ事寄悪事仕間敷、御法度之鶴白鳥堅ノ打間敷候、仮令親子兄弟たりとも持主之外、貸渡申間敷候且又持主病死或は獵業不相成子細有之候ハハ、御訴奉ノ申上御指図請候様可仕、自然内証ニテ余人え讓渡候欵又ハ悪事仕出候ハハ、当人は不及申村役人五人組迄、如何様之御仕置ニも可被仰付候、若村々強ての御願筋等有之、近村騒立追々村方之者も被申威、無余儀騒立人数之内えノ被引立候儀有之候共、獵師鉄砲所持仕候上は、右其節迄ノ相用候鉄砲玉薬其外諸道具取揃、所持仕早速ノ御陣屋え罷出、右之始末御注進申上、御差図受ノ相働可申、若被申掠右鉄砲所持仕、騒立人数之内えノ被引込候ハハ如何様之御咎ニも可被仰付候、為後日連印ノ証文差上申処依て如件、

天保十五年三月

右持主

誰 印

同

誰 印

同

誰 印

村役人

誰 印

竹尾清右衛門

御役所

用紙帳面 広方紙

威鉄砲証文

是ハ先キ之上書控 何国何郡何村

差上申威鉄砲証文之事

拝借

一、威鉄砲 何挺 玉目何匁 何国何郡何村

持主 誰

持来

一、同 何挺 玉目何匁 同 誰

拝借

一、同 何挺 玉目何匁 同 誰

何挺

右は当村猪鹿為防、書面之威鉄砲従先規所持ノ仕来候処相違無御座候、然上は玉込殺生等堅ノ仕間敷、尤親類好身之者ニ候共、猥ニ貸渡申間敷ノ且又外え讓渡候節は、其段御訴奉申上御差ノ請候様可仕旨被仰渡、承知奉畏候、自然鳥獸ノ威ニ事寄、悪事仕候ハハ持主は不及申村役人共ノ如何様之御咎ニも可被仰付候、若村々強て之ノ御願筋等有之、

近村々騒立追々私村方之ものも被申威、無余儀騒立人数之内ニ被引立候儀有之候共ノ其外諸道具取揃、所持仕、早速御陣屋え罷出ノ右始末御注進申上、御差図請相働可申、若被申掠右鉄砲所持仕、騒立人数之内え被引込ノ候ハハ如何様之御咎ニも可被仰付候、依之村役人ノ連印証文差上申処如件、

天保十五辰年三月

右 持主 誰 印

同 誰 印

同 誰 印

同 誰 印

竹尾清右衛門様

御役所

○ 七月十一日惣代 新城より筋代相勤申候

一、彈威鉄砲共、木札先配之節御渡ニ相成居候分ノ持参いたし、此度新木札用意いたし可引替旨ノ代銭持参可致候尤筋限木札数取調可ノ書出候事、

一、前々引付を以、御林内え立入候者木札請取来候ノ村々も、右同様先支配之節、御渡ニ相成候分ノ持参いたし新木札用意いたし可引換旨、是又被仰渡候事、

但 新木札同様持立候様可致候事、

壹枚ニ付 六文

一、金 式拾貳両 三分銀壹匁八分四厘

此銀 壹貫三百六拾六匁八分四厘

是は去ル丑年江戸御廻米納入用出銀辻

一、金 壹両 銀三匁七分貳厘壹毛

此銀 六拾三匁七分貳厘壹毛

是は去ル丑年江戸御廻米 浅草御出張所入用出銀辻

一、銀 壹貫四百三拾目五分六厘壹毛

一、銀 四拾三匁六分四厘八毛

合銀 「記事なし」
是は去ル寅年江戸御廻米 浅草御出張所入用出銀

此分此節借立当辰御口米方一同米取立返済可候、

一、金 八拾壹両壹分式朱 取計もの先達より申談候口々

此丁銭 五百五拾六メ六百「五」文

日田玖珠直入下毛松ら五郡 割賦 八月一日二日取立申

談度事

但 高拾石ニ付、丁銭七拾八文八分令五毛

一、中城御蔵所、西御米蔵其外諸々普請方

右之趣被仰聞承知仕候、依之惣代印形いたし置候、以上、

其村々丑寅兩年割附並皆済目録ノ可相渡間、左之書類取揃村役人之内ノ
老人宛印形持之、来ル廿日より八月十五日迄之内ノ無相違可罷出候、

丑寅兩年分

一、御年貢米銀請取通ひ手形類

一、置米之内諸渡方請取書

一、仮免状

右之通可持參候

但此分付紙

一、獵威鉄砲並木札先支配中相渡置候分、可引ノ替間、用意いたし可罷
出候、右鉄砲証文振ノ合相直候案文、会所詰庄屋共えノ相渡置候間、
写取追て取調差出可申候、

一、去ル寅十二月より卯十一月迄、村入用状取調、例年之通り式冊宛八
月十五日迄可差出候、

一、前々引付を以林内え立入候もの、木札請取ノ来ル村々は、先支配之

分引替可相渡間用意いたし八月十五日迄可差出候、

右之通相心得、此廻状村下え令受印早々順達ノ留より可相返もの也、

辰七月八日

日田 御役所

日田郡桜竹村 本城村 塚田村 出口村 芋作村

新城村 五馬市村

右村々役人

七月廿一日 出口より請取、新城え繼立申候

○ 八月一日納

一、人足 壹八人

五馬市村

薄「箕カ」 拾五枚ニ代ル 大原納

但 老間四ふあみ

式間続き

右は、大原宮八月御神事諸入用物日限之通御納ノ可被成候、且御神事之
節、出夫之儀不淨無之ものノ髪月代等いたし無違滞罷出、神宮寺大宮司
えノ相断候様御申付、少も無間違御差出可被成候、此ノ触出早々御順達
可被成候、以上、

辰八月

会所 印

右村々御役頭中

八月一日 出口より受取

新城え繼立申候

○ 其村々当辰定免切替並新規定免ノ之儀、御下知相済候段申渡候間、
此状披見次第村役人三印持參、罷出可相届候、此廻状村順能早々順達、

留村より可相返もの也、

辰八月三日

日田御役所 印

日田郡池辺村

野田村

五馬市村

右村々役人

○ 当七月十五日納郡中入用出錢、御村々以今御納無之当所甚々差支候間、早々御納可被成候、此上御延引ニおいては飛脚差立候間、無御延引御納可被成候、此状早々御廻シ可被成候、以上、

八月二日

会所

桜竹村

本城村

新城村

塚田村

出口村

五馬市村

芋作村

右村々御役頭中

○ 丑寅兩年分御割附皆済目録御渡し仰付候ニ付／七月廿日より八月十五日迄村役人印判持參、罷出候様／御廻文ヲ被仰渡候処、未だ引替罷出不申候間早々罷出候様、村々え可相達旨被仰渡候間、其筋内村々え此段御達可被成候、

一、鉄砲札並薪札之儀も御書替被仰付候間、是迄／御渡ニ相成居候御札御取集メ御持參可被成候、尚又／鉄砲証文之儀も、認メ替差上げ候様御案文書御渡し／相成居候間、左様御承知可被成候、

○ 一、寅十二月より卯十一月迄村入用帳

当り佐左之通御座候

但 高百石ニ付

御陣屋御修復入用

丁錢四貫八百五拾三文壹分六厘四毛

但 高百石ニ付

丁錢五百貳拾九文八分八厘八毛七七

右之通御座候、以上、

八月三日

会所

桜竹俊吾 殿

○ 豊後国日田郡五馬市村

元持主 清右衛門

鹿鳥鉄砲

壹挺

玉目

信作

三匁八分

此役銀

四匁

天保八年酉六月

寺西蔵太

御役所

○ 豊後国日田郡五馬市村

佐七

寺西蔵太

鹿島鉄砲 壺挺 玉目

御役所

式刃八分

天保八年酉六月

此役銀 式刃

右は元持主佐七此節取調ニ付、名前替源藏と御願申上候積り、

○ 当辰七月十五日納郡中入用出銭、其村々今以ノ御納無之、是迄毎度才足申進候得共、御納無之ノ当所甚差支候間、此節飛脚差立候間、早々御納可被成候、此段申進候、以上、

八月八日

会所

桜竹

本城 飛脚賃錢御渡可被成候

塚田 同断

出口 同断

芋作 同断

新城 同断

五馬市 同断

拾刃相渡

○ 覚

一、人足 三人

内 式人 駕籠壺挺

壺人 兩掛壺荷

右は、検使見分御用相濟、我等儀今昼九ツ時ノ直入郡井手野村出立、日田陣屋え罷歸り候間、得其ノ意、書面之人足無遲滯差出、且休泊之儀は左之通ノ相心得、都て差支無之様取計可被給候、此先触早々ノ継送り、右陣屋え可被相達候、以上、

酉八月十三日

竹尾清右衛門手代

桑名伝次郎

八月十三日出立

井手野村

同 泊 田野村

同 十四日 休 五馬市村

同 着 日田 着

追て休泊ニテも上下式人分賄用意ノ可被給候、以上、

○ 其村々新田之分、当辰新规定免相願候ニ付ノ當時伺中ニ有之候処、品ニ寄検見取ニも可被成哉ニ候間、刈取方之儀ハ追て及沙汰候迄見合候様ノ可致、此廻状村下令請印、早々順達留より可相返者也、

辰八月十八日

日田郡 五馬市村

新城村

芋作村

出口村

塚田村

本城村

桜竹村

日田御役所

○ 覚

一、人足 拾人

内 壺人 兩掛 壺荷

六人 籠 三挺

式人 指荷 壺筒

三人 同 老箇

外ニ宿駕老荷用意可有之候、

一、馬 七匹

右は就御用我等儀、家内一同明後廿四日明六ツ時ノ豊後国日田陣屋出立、日向国富高陣屋え罷越候条、書ノ面人馬無遲滞差出、支配所之外は御定之賃錢請取、継立ノ且渡船川越止宿等、都て無差支様取計、休泊之儀は左之通ノ相心得上下七人随方等有之、此先触早々継送り、右富高陣屋え可被相届候、以上、

辰八月廿二日

竹尾清右衛門手代

芳賀栄一郎

豊後国日田より

日向国富高迄

右宿村々

役人中

休泊附

八月廿四日

日田出立

廿五日

休 出口村

御昼 上井手村

同 泊 宮ノ原

泊 五馬市村

廿六日 休 久住

廿七日 宇田枝 休

同 泊 竹田

廿九日泊 永 井

廿七日 泊 小野市

同 泊 延 岡

廿八日 休 重岡

三十日休 門 川

同 泊 八戸

三十日 着 富高

別紙御先触早々継立可被成候、依御村々共、道筋ノ御案内可被成候、且御継立方無御延御継立可被成候、以上、

八月廿二日

会所

陣屋廻 中城 上井手 五馬市 出口

右村々御役頭中

○ 覚

一、人足 七人

塚田村

一、同 八人

本城村

一、同 五人

桜竹村

一、同 五人

新城村

一、同 拾人

出口村

一、同 拾三人

五馬市村

一、同 式人

芋作村

一、馬 七匹

出口村

一、同 六匹

五馬市村

右は、芳賀様御家御一同、今日御陣屋御出立ノ日向御越ニテ五馬市村御泊リニ相成候間、書面之人馬ノ今晚同村え相揃、御出立ニ聊差支無之様御差出ノ可被成候、此状早々御廻可被成候、以上、

辰八月廿四日

出口 弥惣治

右村々

御役頭中

追て八戸より延岡迄川船通路差支無様可被取計候、以上、

覚

- 一、人足 式人 新城村
- 一、同 式人 桜竹村
- 一、同 三人 本城村
- 一、同 三人 塚田村

右は、芳賀様御家内御一同、日向御越ニ付、先刻出口より人足触出候処、右之外御家内多、人足相増候間、書面之通追割致候間、前書之通今晚罷出候て、相待居候様お取計御差出可被成候、尚又下拙儀、頃日より不快ニ付、諸事届兼候儀も御座候間、今夕御泊り之儀宜御頼申上候、

村々 御役頭中

五馬市 信作

右村々御役頭中

○ 筋代御用相勤候ニ付、明廿七日本城良平殿宅へ出会可仕候間、御村並村高御書記御持參可被成候、此節は早々御用談有之ニ付、無名代御自身御出席可被成候、以上、

新城彦右衛門

- 本城 良平殿
- 塚田 俊左衛門殿
- 出口 弥惣治殿
- 五馬市 信作殿
- 桜竹 俊吾殿

追て本城氏より申上候、貴宅出会申触候間、御手当可被下候、

芳賀様御儀、明廿四日明六ツ時御出立被遊日州富高御陣屋へ御越し被成候、其御村々道筋無等閑御案内可被成候依無間違御取計可被成候、此状早々御廻シ可被成候、以上、

八月廿四日

会所

- 豆田 女子畑
- 城内 大鳥
- 中城 柚木
- 堀田 続木
- 田嶋 五馬市
- 竹田 新城
- 刃連 芋作
- 上井手 出口
- 苗代部

○ 当月氏神祭礼ニ付、太鼓ヲ打子若きもの集り相撲相催候趣相聞、心得違旨以之外之儀ニ付、仮令祭礼たりとも右様之儀不仕候様、尚又追々御見廻りも可有候間此段被仰渡候間、急束「速」御村々共右之趣、小前之ものえ御論可被成候、必無等閑様御取計此状刻付を以御廻シ可被成候、以上、

九月八日

会所

- 始 桜竹 本城 新城 塚田 出口 芋作 五馬
- 市留リ
- 右村々 御役頭中

○ 覚

一、人足 五人

内 式人 駕籠 壹挺

式人 両掛 式荷

式人 步竿持

右は、当田方為検見我等共儀、明十五日／明六ツ時日田陣屋出立、下井

手村外式ヶ村／致廻村候条、書面人馬無遅滞差出、都て余慶之人足不差

出可被継立候、且／渡船川越等有之場所は、前後村方申合／無差支様取

計、泊ニテハ御定之木銭米代／所相場を以相払候条、有合之品を以相賄

／一汁一菜之外決て不差出、聊費ヶ間敷／儀無之様可被相心得候、此先

触早々継送り、留り村より日田御役所え可被相届候、以上、

辰九月十四日

竹尾清右衛門手代

間 晋四郎 印

真壁 宇兵衛 印

日田 下井手村 高取村 栗林村

九月十五日休 小五馬村 続木村 五馬市村 本城村

十五日泊 桜竹村 右村々より女子畑村通り 十六日 日田迄

右村々 役人中

追て下井手村小五馬村ニテ見取いたし候条／入用之品々持参、村境え出

迎居、順能案内いたし／舂法所は、可成丈通筋之積相心得、都て不都合

／無之様取計、昼食之儀は弁当持参いたし候条、湯薬之外用意ニ不及候、

一、櫻竹村ニテは新規温泉湧出候場所見分いたし候、且賄方之儀は上下

四人分用意可被致候、以上、

一、御会所より右ニ付、通筋案内御分せ状封／尤小五馬村十四日戌中刻

栗林村より請取、同刻五馬市村え継立申候

是ハ付紙覚書

一、人足迎人足 諸状 会所より老通添

○ 覚

一、銀 百貳拾匁四分七厘 日田郡新庄村

一、同 四拾八匁六分 芋作村

一、同 三百貳拾老匁四分四厘 五馬市村

一、同 三百拾老匁三厘 出口村

一、同 貳百四拾九匁七分老厘 塚田村

一、同 貳百六拾九匁七分六厘 本城村

一、同 百九拾八匁七分八厘 櫻竹村

一、同 貳百六拾三匁九分老厘 赤岩村

右は、当辰御年貢長崎御廻米四ヶ所納、入用／銀前割賦相触候間、来十

月一日二日両日之内、／丸屋幸右衛門預書を以可被成候、尤去卯起返／

並畑田ニテ御取箇相増候村々之分、追て取調／増銀可申進候間、此廻状

村下被成下、御請／印早々御順達留りより御返し可被成候、以上、

辰九月 会所

右村々 御役頭中

○ 其村々御年貢米津出皆済不相済内、勝／手を以猥ニ売払、又は古借

等之内え相渡候儀／不相成候間、村役人共之内能々心付候趣、小前／老

人別ニ申渡、成丈ヶ手繰いたし御年貢皆／済可取計候、仮令貸方之もの

ども彼是催促／ヶ間敷儀申掛候共、皆済不致内は不相渡／御年貢皆済之

上銘々相對借之分、実意／を以払入候様可致候、

一、村々において酒造過造又は隠造等は有間敷候筈ノ之所、村々之内には心得違之もの有之哉粗相聞ノ不埒之事ニ候、既ニ昨年中酒造致候ものは銘々鑑札相渡置候儀ニ付、右員数より決テ過造致間敷候、右之外無札ニテ隠造り等致候ノもの無之様、村役人共心付可申候、尤品ニより改めもの差出、自然心得違之もの有之候ハハ嚴敷致吟味候間、兼テ其段可相「心」得候、此廻状村下庄屋令請印、早々順達留リ村より可相返もの也、

日田御役所

日田郡 初

苗代部

五馬市村

辰九月十一日

終

九月廿一日 新城より受取

○ 一、銀 貳貫五拾目

五馬市村

右は、其村々当辰御年貢初納銀書面之通ノ令割賦条来月十四日十五日兩日之内、無相違ノ可相納、尤中には納方不成村方有之候間、兼テ心掛け置日限無遲滞可相納候、

一、当辰御廻米之儀米証得と相選、升目は勿論ノ繩俵等迄精々入念拵立可申、且手本米可成丈ヶ／早々可差出、尤手本米余リ「部」分ニテは取調方差支候間ノ其心得ヲ以可差出、

一、津出方延引相成候ては、自然積立方手後ノれニも相成候間、其心得を以成丈ヶ手廻いたし、津出ノ抄取候様取計可申候、

右之趣得其意廻状村下え庄屋令請印ノ早々順立（達）留村より可相返もの也、

辰九月十六日

日田 御役所
九月廿一日 新城村より参ル

○ 筋代御用相勤候処、被仰渡候急ノ御用申談候儀有之候間、明廿七日、塚田ノ俊左衛門殿宅え無名代御自身ノ御出席可被成候、以上、

九月廿六日

桜竹 俊吉

本城 良平殿

塚田俊左衛門殿

出口弥惣治殿

芋作 連平殿

新城彦右衛門殿

五馬市信作殿

追テ塚田氏え申上候、貴宅絵出會申触候間、左様思召可被成候、以上、

○ 其御村新規温泉「湧」出候ニ付、御願ニ相成候処右場所ニ温泉入湯場相仕立候ても近村故障ノ有無無之儀承相調書付請取差上候様被仰渡候趣ノ御掛合被成ニ付、村方取調候処、右之場所入湯場ノ御仕立被成候ても拙者共於村方少も故障無御座候ノ依テ書付差出候処如件、

辰九月

日田郡 本城村庄屋

良平

五馬市村庄屋

信作

新城村庄屋

彦右衛門

赤岩村庄屋

新三郎殿

桜竹村庄屋

俊吾殿

連印

○ 上書

組頭
庄屋

天保十五年

天保十五年九月

御米方之儀ニ付被仰渡候趣請書小前連印帳

日田御役所

辰九月

豊後国日田郡 何村

申渡

○ 辰九月廿日 筋代御用申談書之事

豊後豊前肥前国村々御年貢米、俵拵之儀ノ是迄仕来にも可有之候哉拵方
廉末ニ付、昨年中もノ嚴重申渡、湊々えは手本俵等差出拵方入念為ノ取
計候得共、小前末々迄ニは不行届候哉兎角拵方ノ廉末之分も有之、殊ニ

一、当辰長崎御廻米所々出役名前、筋限、来ルノ廿九日迄
取極メ書出可申候事、

さん俵等至て小く於御蔵ノ庭多分散米相成、自然と納方ニ相「当」御不
益は勿論郡中ニても不並之入用相掛リ、詰ル処村々ノ難渋ニも可至、猶
又此度御蔵方より嚴重御沙汰ノ有之、不容易儀ニテ、畢竟村々心得方等
閑之ノ故ニ「付」、当辰御廻米より之米拵は勿論、繩俵拵方ノ格別入念、

但 人当書出候上は場所好いたし間敷候事、

さん俵等も是迄之仕来ニ不拘、手厚ニテノ太クいたし、小口加々リも拾
三所結ニ取極可申候、其上ニもノ廉末之拵方いたし、附出候もの有之候
ハハ、於預所ノ改之上、嚴重相糺候間、心得違致間敷く候、猶惣代之ノ
ものより村々共可申談候間、小前老人別庄屋宅へノ呼出前書之趣無違失
申渡可置事、

一、当辰長崎御廻米津出御日限、十月廿日より十二月十五
日迄、日数五十五日可奉願上候事、

一、手本米、村々共上下中一袋ニ付、五合入ニ相仕立ノ
早々相納候様可取計候事、

一、当辰長崎御廻米之内、而筑買替米願高之事、

一、蔵所取繕諸入用並大原楼門ノ取繕諸入用
共、御米一同取立之事、

一、先達て中、追々申談割賦いたし候御取計もの之儀ノ未夕御納無之、
筋内早々御納可被成候様御取計ノ可被成候事、

辰九月

一、去卯十二月納新開入用其外、寺西様先年下毛郡ノ御滞
陣入用出銀、未夕御納無之村々早々御納不被下ノ候ては郡々渡方勘
定差支候間、早々納方ノ筋限御取計可被成候、

日田 御役所

一、当辰七月納郡中入用、未夕御納無之村々、早々ノ御納可被成候、
丸屋借用日々之所差支候間、此上御納方ノ御取計可被成候事、

前書之趣被仰渡承知奉畏候、依之私共村方小前ノ老人別精々申聞、聊不
取締之儀無之様仕候ニ付ノ御請印仕、奉差上候処如件、

豊後国日田郡何村

小前惣代

一、郡々村々当辰御年貢米之儀、米拵方は勿論／繩儀拵方念入、聊等閑之儀無之様、別紙之通小前／言人別精々行届候様申聞、村々小前言人別御受印帳／差出候様被仰渡候事、

一、日州富高其附牢屋御普請入用出銀、御取被仰渡事、
一、玖珠郡四日市村森御領分大浦村引合一件、大坂／御吟味ニ付、多人数罷越候ニ付、諸入用之内、前割被仰付候事、

○ 尚申候 外口々御相談不申候ては不相濟御用有之候間、重畳「急度」御出勤可被下候、

御米方一件ニ付、御相談申上度儀御座候間／此者一同御出勤可被成、尤当年御出役／之儀、無相違候得共来年之処御筋内ニ／相当訳有之候間、必々無御延引御出勤／奉待入候、早々、以上、

十月三日

筋惣代

鎌手 三左衛門

袖野木 伸 平

五馬市 信作 殿

○ 其村々天保已高入新田新規定免之儀／先達て相願候処、当辰来巳二カ年定免被／仰付候間、得其意請書早々書上可差出候、本田之儀は勝手次第刈取可申候、此廻状村下令請印早々順達、留より可相返もの也、

日田 御役所

辰九月廿九日

日田郡

新城村

芋作村

○ 出役極メ

辰年

城内 中 政右衛門

渡里 中 惣左衛門

小野 せ 順 平

大肥

高瀬

大山

午年

城内 中 寿作

渡里

高瀬 せ 仁郎治

口五馬

大山 中 清兵衛

小野 欽作

口五馬

大肥

五馬市村

出口村

塚田村

本城村

桜竹村

右村々

庄屋

巳年

渡里 中 源平

城内 中 勘助

高瀬 中 富右衛門

口五馬 せ「平

奥五馬 中 良平

大肥 せ 真治

未年

奥五馬 中 信作

休年 口五馬

城内 中 作左衛門

渡里 中 平左衛門

高瀬 せ 寿作

奥五馬 せ

大肥 中 助六

小野 中 半四郎

休年 口五馬 秋右衛門

大山 長 武左衛門

申年

休年 小野

中 源平 奥五馬 中 弥惣治

中 三右衛門 大肥 せ治右衛門

中 甚右衛門

中 朝左衛門

せ 留右衛門

せ 俊左衛門

せ 洞平

○ 覚

一、丁銭 式百三拾壹文 桜竹村

一、同 四百七拾九文 本城村

一、同 式百三拾四文 新城村

一、同 四百三拾八文 塚田村

一、同 七百拾六文 出口村

一、同 八百七拾七文 五馬市村

一、同 八拾九文 芋作村

右は、富高陣屋附牢屋並番屋外圍共ノ新規建替諸入用、書面之通割賦相觸候間ノ来十月十四十五日両日之内、丸屋幸右衛門預リ書ヲ以ノ可相納候、此廻状村下庄屋令請印、早々順達留村より可相返もの也、

日田 御役所

辰九月廿四日

○ 昨十日筋代御用相勤候処、別紙之通御座候ニ付御出会申上候筈ニ候得共、御上納取立前ニ差掛り候間、刻付ヲ以ノ被仰渡候趣相廻シ候間、御披見之上、早々御順達可被成候、以上、

十月十一日 新城彦右衛門

五馬市始 櫻竹 本城 塚田 出口 留リ

○ 十月十日 筋代

当辰御年貢銀ハ勿論、諸出銀共御日限通りノ御上納不仕村方は、村役人御召出之上、御日限延引ノいたし候丈ヶ嚴重之御咎メ被仰付候間、兼て左様ノ相心得村方取立物御役所御日限以前ニ取持置ノ御日限通急度御上納仕候様可仕候旨会所両人ノ御召出之上被仰渡候事、右之趣被仰渡承知奉畏候、早速組合村方え、私共より申達御ノ日限通御年貢銀は勿論、諸出銀迄相納候様、取締可仕候、依之御請印致置候、以上、

○ 其村々御年貢納方之儀、以前ハ十四日十五日両日之内、急度相納候由之処、近年等閑ニ相成、日限後れ候村方ノも有之不埒之事ニ候、当初納よりは触日限無相違可相納候、若日限後れ候村方は延引丈ヶ之日数咎申付候間ノ得其意、日限無相違可相納候、

一、貯穀年々困増方之儀、去卯年中より申渡、同年はノ夫々困増もいたし候処、右は去卯年ニ限り候儀ニハノ無之候間、当辰年も相心困増いたし、早々届出可申候、ノ右之通相心得此廻状村下庄屋令請印、早々ノ順達留リ村より可相返もの也、

日田 御役所

辰十月七日

日田郡 苗代部村 女子畑村 大鳥村

柚野木村 湯山村 赤岩村

桜竹村 本城村 塚田村

出口村 芋作村 新城村

五馬市村

十月十三日 新城村より受取

○ 一、拾九貫八百六拾八文

五馬市村

右は、来巳郡中入用前割、書面之通割賦／相触候条、来ル十一月一日二日兩日之内、丸屋幸右衛門預り書ヲ以可相納候、此廻状村下庄屋令請印早々順達、留り村より可相返もの也、

御役所

辰十月

○ 一、丁錢壹貫七百五拾七文

五馬市村

右は、当辰三ヶ所御初穂、例年通割賦相触候間／来十一月一日二日兩日之内、丸屋幸右衛門預り書ヲ以御納／可被成候、此廻状村名下ニ印形被成、御順達留り／村より御返可被成候、以上、

辰十月

会所

右村々

御役頭中

○ 一、銀百四拾七匁七厘

五馬市村

右は、玖珠郡四日市村私領引合一件、大坂町／奉行所吟味中諸入用之内、

四ヶ国割先前／仕来ヲ以前割願出候ニ付、相糺、書面之通り／割賦相触候条、十一月十四日十五日兩日之内、丸屋／幸右衛門預り書ヲ以、会所え可相納候、此廻状／村下え庄屋令請印早々順達、留り村より可相返もの也、

日田 御役所

辰十月六日

○ 御米方之儀ニ付、大急御用有之候間、印判／御持参、飛脚一同即刻

御出勤可被成、必御延引／被成間敷候、以上、

十月廿日

会所

五馬市信作 殿

尚申候 飛脚賃六匁御渡可被下候

○ 覚

一、金 四拾六匁

代 拾九文錢 拾六貫五百六拾目

此利 壹貫三拾五匁 辰八月より

同十二月迄五ヶ月分

拾七貫五百五拾五匁

此米 四拾六石三斗三合 但 米壹石ニ付

錢三百「八」目替

但 御米高 壹万百五拾石ニ割

右は、中城御藏所普請入用割賦辻

一、金 拾六匁

代 五貫七百六拾目

此利 貳百八拾八匁

六貫四拾八匁

此丁錢 百拾四貫九百五拾貳文

此米 拾五石九斗壹升六合

但 高百石二付

丁錢四百五拾五匁余

此米

此訊 米壹石二付

丁錢「」

右は、大原樓門取繕ひ普請入用割賦辻

○ 筋代御用相勤候ニ付、明廿五日正五ツ時、桜竹ノ俊吾宅え出会可致候間、無御延引御自身御出ノ席可被成候尤此節之儀諸書物等多分御座候間、無名代御出席可被成候、以上、

十月廿三日 新城彦右衛門

十月廿三日

桜竹俊吾殿

本城良平殿

塚田俊左衛門殿

出口弥惣治殿

五馬市信作殿

十月廿九日夕方受取

○ 一、米 拾五石式斗九升八合六匁 江戸御廻米

一、米 百五拾四石

長崎御廻米

右は、其村々当辰御物成之内、御廻米書面之通ニ付ノ兼て申渡置候通、米証並繩俵拵入念早々津出可致候ノ此廻状急速順達、留り村より可相返もの也、

日田 御役所

十月廿五日新城村より受取

辰十月十九日

巳三月 御返納仕候

○ 一、米 拾五石五斗

右は、当辰長崎御廻米之内、買替米書面之通ノ割賦相触候間、定例之通引受人方え代永御附出ノ一同皆済可被成候、此段申進候、以上、

十月十九日

会所

十月廿五日新城村より「取カ」

○ 一、米 七斗貳合

五馬市村

右は、中城御藏所所々取繕御普請諸入用、書面之通ノ割賦相触候間、其御村々長崎御廻米一同関中城両ノ御藏所え御附出御納可被成候、此廻状村下請印ノ早々御順達留り村より御返可被成候、以上、

辰十月

会所

○ 一、銀 貳貫五拾匁

五馬市村

右は、其村々当辰御年貢ニ納銀割賦、書面之ノ通候条、来月十四日十五日両日之内、急度上納可致候ノ若不納村方有之は嚴敷遂吟味、其旨相得心ノ可申、此廻状村下え庄屋令請印、早々順達留り村より可相返もの也、

日田 御役所

辰十月十日

此御廻状巳三月 御返上仕候

○ 当辰九月九日 長崎表ニテ

撰州無宿

入墨 長藏 事

吉藏

辰 三十才

一、丈 低キ方 一、鼻 常躰之内小鼻

一、中肉 高キ

一、顔 細長く色白キ方 一、眼耳 常躰

一、両「」 瘡瘡之跡有之 一、髪 薄キ

一、眉毛 薄キ方

一、其節之衣類 木綿赤嶋之綿入藍基盤嶋

単物形付襦袢を着

右同断

柳川無宿ニテ

長崎麵屋町

徳兵衛

辰三十三歳

一、中肉中文背中ニかすり疵有之

一、顔 常躰丸キ色黒キ方

一、眉毛 濃キ方 眼平常躰

一、立舌早ク 口聞候節目たたき候くせ有之

一、髪 常躰 額抜付ヶ有之

一、其節衣類 木綿藍嶋を着

右之もの共、長崎表ニテ入牢申付吟味中之処、去月九日夜牢抜いたし、行衛不相知旨、長崎ノ奉行より達有之候間、右躰之者見掛け候哉又は、村内え入居候ハハ、差押へ置、早々可訴出、此廻状村ノ下令請印、早々順達留村より可相返もの也、

日田 御役所

此御廻状巳三月 御返上仕候

○ 其村々当辰年定免御下知濟、小前ノ惣連印之請証文今以差出無之、早々ノ取調可差出候、其節此書付可差返もの也、

日田 御役所

十月廿八日続木村より受取

十月廿七日

五馬市村

塚田村

○ 当辰閏御蔵所御出役紅林伊九郎様御請被成候間ノ御米内札御同人様

御名前御書入、早々御差出可被成候ノ尤初川下一両日之内、被仰渡候間

早々御差出不被成候てはノ差支ニ相成候間、精々無間違御取計御差出可

被成候、此廻状刻付ヲ以御廻シ可被成候、以上、

辰十月廿八日

御蔵所

五馬市村

十月晦日 酉刻着

村々

○ 一、人足 拾老人

内 式人 駕籠 耆挺

老人 兩掛

八人 指荷

一、輕尻馬 三匹

右は、於御用我等儀、明後日廿八日、富高陣屋ノ出立、豊後国日田陣屋迄罷越候条、於宿村々ノ書面之人馬御定之賃錢請取之、無遅滞繼立致ノ舟川越有之場所は、宿村中合無差支様取計ノ休泊之儀ハ左之通相心得、御定之木錢米代ノ所相場ヲ以相払い候条、上下五人分賄用意可有之候ノ勿論所有余之品ヲ以取賄、馳走ヶ間敷儀決て致間敷候ノ先触ハ順達、豊

後日田え至同所陣屋え可納達候、以上、

十月廿六日

竹尾清右衛門手代

志賀 甚蔵

日州富高より

豊後日田迄

十一月三日 出口 休 十一月「六日」出口より受取

上井手村遣ス

○ 覚

一、人足 七人

一、馬 三匹 又 軽尻 壹匹 是ハ代官足痛ニ付

右は、日州志賀様御通行入用人馬ニ付、明後三日極々早朝当村え御差出

「可」相成候、尤外村々えは別紙ヲ惟申触置候、以上、

十一月二日

出口弥惣治

五馬市村

御役頭衆中

○ 当御蔵所取立御米為御見分、日々御出役様御附被遊、御改有之候処、

御村々附出御米之内、米拵不宜、粘くだけ、等有之、中には水気米等附

出もの御座候ニ付、嚴重ノ取締向被仰渡候、当年之儀ハ天氣宜干目等宜

筈之処、畢竟村役人共小前ニ申聞方不行届之趣ニ相聞、候間、極々入念

相納候様、詰庄屋共より可申触旨被仰渡候間、小前末々ニ至迄不束之儀

無之様、米拵ハ勿論繩俵ノ等至迄、精々入念為附出可被成候、

一、御米内札川下ニ差支候間、此状着次第早々御差出可被成候、且御出

役様御手代紅林伊九郎様御名前御認メ可被成候、尤御交代ニ相成候

儀難計ニ付、御村々御米半事分都合ノは御名前御書入不被成、御差

出可被成候、右之段御承知被成、村名下御受印之上、刻付ヲ以早々

御順達、留村より御返し可被成候、以上、

十一月二日

中城

御蔵所

五馬市 出口 塚田 本城 櫻竹 新城 芋作

○ 以手紙得御意候、各様弥御堅勝被成御座珍重奉存候

然ば彦山「兔カ」石坊、塩谷御支配之節、郡中安全ノ五穀成就御祈禱、

右御初穂村々ニおいて家別ノ拾式銅宛神納致来候処、近年相止居候、然

ル処ノ同坊御拝借銀返納有之、此節調達方御内意ヲ以ノ先例郡中五穀成

就可取計旨、被仰渡候間、御初穂之儀、時節柄行届兼候ニ付、高掛リヲ、

壹石ノニ付、丁銭式文当リヲ以御村々共御神納可被成候、右之段ノ委細

は同坊より御頼可申上候、右如斯御座候、以上、

辰十月

日田郡

下毛郡

直入郡

玖珠郡

尚申候 止宿之儀相断次第 御取計可被成候、

○ 一、丁錢 壹貫四百文

五馬市村

十一月四日 相渡ス

一、昨五日御用談ニ付、三判相揃出口弥惣治殿ノ宅御出会可被成候、名

代無之御自身御出席可被成候、以上、

十一月四日

新城 彦左衛門

五馬市 出口 本城 塚田 櫻竹 新城 芋作

○ 当辰長崎御廻米買替納之内、竹田伊助引受ノ口其御村々分同人より万「」六右衛紋方へ相「」いたし候旨ノ申出候ニ付、御村々共同方え向附出被成候様御ノ計可被成候、一紙手形之儀ハ伊助方より差出候間、左様御承知御受印被成、此ものえ御渡可被成候、

十一月八日

会所

五馬市村 新城村

出口村 櫻竹村

塚田村 本城村 芋作村

○ 其村々去卯割付皆済目録、当月十四日ノ十五日両日之内、引替候ニ付、小手形並見取ノ有之村方は、仮免状持參罷出引替可申候ノ此廻状早々順達、留り村より早々相返もの也、

辰十一月「拾」日

日田 御役所

十一月九日 新城村より受取

此廻状已三月 御返上仕候

○ 其御村々当所附出御米、川下ヶ致於関河岸ノ御出役様御改受候処、一鉢米拵不宜且繩俵ノ等ニ至迄廉末之拵有之、御刎俵等ニ相成ノ以後納方嚴重入念相仕立候様、諸庄屋共より可申触旨被仰渡候間、即刻小前繪申触ノ不束之儀無之様御取計可被成候、附出之上ノ相納不申候ては小前難渋ニ相成候間、精々ノ御取計可被成候、

一、米内札今以御差出不被成、川下ヶ差し支えノ相成候間、御名前御書

入早々差出可被成候ノ此上延引ニ相成候得は「差取」賃飛脚差立ノ

候間、左様御承知、此状着次第御差出可被成ノ左之通御承知之上、

廻状御受印被成ノ刻付ヲ以御順達可被成候、以上、

十一月十二日

御蔵所

五馬市 新城 芋作 出口 塚田 本城 櫻竹

○ 一、御銀附馬 貳匹

外

才領馬 壹匹 外 貳匹

右は、日向国村々当辰御年貢銀明ノ後十三日明六ツ時、富高陣屋差立、豊ノ後国日田陣屋迄差遣候条、書面馬無ノ遲滞差出、支配所之外は御定之賃錢ノ請取之継立、渡船川越等有之場所は前ノ後申合、無差支様手当可被致候、且つ休泊ニテノは御銀大切ニ相守、番人附置御失交無之様ノ可被取計候、此先触早々継送、日田陣屋えノ可被相届候、以上、

竹尾清右衛門手代

芳賀 栄一郎

原 健平

辰十一月十一日

日向国富高より

豊後国日田迄

右宿村々 役人中

泊 附

辰 十一月十三日

永井

同 十四日

重岡

同 十五日

宇田枝

同 十六日 久住
同 十七日 宮野原
同 十八日 日田着

右村々 役人中
紅林 伊九郎 判

○ 当辰石代直段

一、大豆 壹石ニ付 銀 五拾七匁五分三厘七毛
一、米 壹石ニ付 銀 七拾六匁四分七厘三毛
一、口米 壹石ニ付 銀 八拾壹匁四分七厘三毛

十一月十八日 中城蔵より

申参候 写置候

○ 一、米百三拾九石八斗八升五合

五馬市村

内 百三拾八石五斗

本米

壹石三斗八升五合

欠米

外ニ 拾五石六斗五升五合

買替米

内 拾五石五斗

出来

壹斗五升五合

欠米

其村々当辰御年貢長崎御廻米、別紙帳面之通／為取立我等儀、明後七日
関河岸え致出役相改／候間、御米入念繩儀未無之様、尤儀／拵之儀は
儀 小口拾三かかり、目貫繩六ツ持／当ニ相仕立、兼て渡置候手本儀之
通相心得／猶当九月中被仰渡候趣、厚相弁心得違無之様／可致候、「一」
御米附出方之儀、日割ニ不拘天氣／次第致出精、年内皆済津出相成候様
可仕候、右之趣、小前不洩様申聞、此状村ノ下致請印、早々順達、留リ
村より関河岸御用先え／可差返候、以上、

辰十一月五日

竹尾清右衛門手代

○ 一、丁錢 四貫百七拾七匁

五馬市村

右は、吳崎新田御普請入用並下毛郡／年賦返納、芳賀様富高御引越入用
共／割賦書面之通御座候間、来ル十一月廿九日限、無遅／滞御納可被成
候、此廻状村下御請印被成、早々御順達、留リ村より御返可被成候、以
上、

辰十月廿九日

会所

右村々

御役頭中

○ 当辰五月より当十一月迄、御用状持賃定例之通／振合通十二月三日

迄御書出可被成候、御差出方御延引／ニおいては仕上「組」方差支候間、
必御延引被成間敷候／此状早々御廻シ、無等閑御取計可被成候、此段申
進候、以上、

十一月廿五日

会所

陣屋廻

中城

上井手

五馬市

上井手より廿六日受取

○ 一、銀 貳貫三百七拾六匁五分貳厘

右は、其村々当辰御年貢三納銀書面之通候条／来月十四日十五日両日之
内、急度上納可致候、若／不納村方於有之は、嚴敷遂吟味候条／其旨相
心得可申、此廻状村下え庄屋令請印／早々順達、留リ村より可相返もの

也、

辰十一月廿五日

御役所

○ 一位様薨去ニ付、今日より普請鳴物停止候間、得其意可被相触候、日数之儀ハ追て可相達候、

右之通、御書付出候間、得其意廻状披見、当日より鳴物普請停止、日数之儀は追て可申渡候間、右之段小前ノ末々迄不洩様申通、此廻状昼夜不限刻付ヲ以早々順達、猶留リ村より可相返もの也、

辰十一月廿九日

日田 御役所

一位様御事

広大院様薨去ニ付、普請は来ル十六日迄

鳴物は同廿四日迄停止ニ候間、得其意可誹意触候、

右之通御書付出候間、得其意普請は六日、ノ鳴物は来ル十二日迄停止、

右之趣小前末々迄ノ不洩様申通、此廻状昼夜ニ不限、刻付ノ以早々順達、留リ村より可相返もの也、

辰十二月八日 御役所

○ 別紙之通、申来候ニ付、宗門御改帳ノ下書出来候ハハ

急速当方え向差出可被成候ノ下帳を以相伺申候間、無等閑御取調御差出ノ可被成候、以上、

十二月廿六日

新城 彦左衛門

五馬市信作 留居

組頭中

当辰十月中被仰渡候来ル巳宗門帳取調方ノ下書出来いたし候村方有之候

ハハ、早々差出ノ相調候様御沙汰有之候間、其組合村方ノ急々御取調御差出可被成候、其御心得ニテ必ノ等閑無之様御取計被成、早々御伺可被成候ノ尤等閑ニいたし置候ては決て相済不申候間ノ左様御承知、急速御取調御差出御伺ノ可被成候、此段申進候、以上、

十二月廿日

会所

新城 彦左衛門殿

宗門人別帳認方、最早人別取調下帳ノ御出来と奉存候ニ付、一応御取会、御案内ノ引合度奉存候間、明十一日五馬市信作殿宅え出会可致候間、各御出席可被下候、以上、

正月十日

新城 彦左衛門

五馬市信作殿

櫻竹 俊吾殿

本城 良平殿

塚田俊左衛門殿

出口 弥惣治殿

(以上)